

蠟梅 Now

2019年の夏を振り返ってみると、7月は冷夏、8月は猛暑、9月は厳しい残暑が続き、息をつく間もなく頻発豪雨に見舞われた。伴って発生した水害がかかる広大な地域に及ぶとは誰が予測できただろうか。マグニチュードは別にして、被害状況に唾然とする。

口火を切ったのは、10月12日夜から13日未明にかけて東日本を縦断した台風19号。亡くなった人は全国で91人、4人が行方不明と報じられている。

国交省によると、記録的な豪雨で川の堤防が壊れる「決壊」が発生したのは、25日時点で、7つの県の合わせて71河川、140か所となっている。川の水が堤防を越える「越水」などで氾濫が発生した河川も16都県の延べ281河川に上っている。

水につかったり全半壊した住宅被害は全国で8万棟超。土砂被害は20都県で660件超発生しているという。

その後、何の変哲もない低気圧が引き起こした豪雨が散発し被害はさらに拡大した。またまた、自然災害に対する脆弱性をハード、ソフト両面で露呈した。

堤防の増強が議論になるだろうが、公共工事の安易な積み増しは慎むべきだ。台風の強大化や豪雨の頻発は地球温暖化との関連が疑われ、堤防をかさ上げしても水害を防げる保証はない。人口減少が続く中、費用対効果の面でも疑問が多い。

ハード対策の限界ともいわれ、ソフト防災に視点に移りつつある。自らの命は自ら守る意識が必要と……。少子高齢化の進行が止まらない中、はて、どこに進路を執る！

閑話休題。

04年に法人を立ち上げて、15年の月日が流れた。記念植樹した「蠟梅」はその間休むことなく、年末年始の冬枯れの寂しい時期に、黄色の可憐な花と、馥郁とした香りで見る者を和ませてくれた。

1月初旬の開花後には忘れることなく、6~7個の小豆に似た種子を包含する5cm程度の蓑虫まがいの果実を多くつけた。実生を試みて11年11月に二世が誕生した。一株を生誕の地西神から筆者宅に移植したが枯らせてしまった。

8月初旬、暑い盛りではあったが、別の株を貰い受けて再度移植した。暑い時期の移植は避けた方がいいと知ったが後の祭り、すっかり落葉してしまい、どうしたものかと悔やんでいたところ、10月に入ってなんと、若葉が出始めた。はて、何とか大きく育てたいものだが……。



《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸
事務局長 大森 信
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7
TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)
E-mail : info@npo-ffk.or.jp
URL : http://www.npo-ffk.or.jp